

Nice Town Good People

中央区 第31号

こんにちは町会です

明石町
町会

まちを興す 地域の担い手 特集号 求む、若きチカラ

THE
TOKYO
TOWERS
自治会

江戸橋会

青年部長
日本人初の快挙！茅場町一丁目町会 今野克彦会長(写真右)
同町会 神谷青年部長(写真左)

茅場町一丁目町会理事・青年部長の神谷晴江さんが、平成三十年十二月二十七日から十二月二日にかけて、南米チリで開催された水上スキー世界シニア選手権大会ジャンプ競技で優勝しました。

スポーツを通して、中央区を盛り上げていきたい！

町会・自治会について
のお問合せは…

- ◎京橋地域
区民部地域振興課
電話:03-3546-5337
- ◎日本橋地域
日本橋特別出張所
電話:03-3666-4251
- ◎月島地域
月島特別出張所
電話:03-3531-1151

中央区 町会・自治会ネット

検索

町会・自治会情報は
「中央区町会・
自治会ネット」

今回は、子どもたちが楽しい思い出をつくれるように、安全・安心に暮らせるようにと精力的に活動する、町会の青年部など若いまちの担い手の方々を紹介します。これから以上に人が増えていく中央区では、もっと多くのチカラが必要で、皆さんの思い以上に素晴らしいふるさとを、まちの担い手の方々と一緒に、皆さんの手で行なうまち中央区につくりあげてみませんか。

夏は縁日で金魚すくいをして盆踊りを楽しみ、冬は力いっぱい餅をつき、お汁粉を食べる。きつと誰もが、子どもの頃に「ふるさと」で見た原風景。中央区では、平成三十年五月に定住人口が五十九年ぶりに十六万人を突破し、年間出生数もこの三年間は二千人を超えるなどベビーブームが続いています。この人口増加は今後も続き、推計では二十万都市も見込まれています。皆さんがそれぞれ「ふるさと」を持っているように、これから生まれ、育っていく子どもたちにとっての「ふるさと」は中央区になります。

子どもたちの「ふるさと」づくりに
参加してみませんか。

京橋地域

子どもと一緒に参加する、 「無理なくできることから」がポイント

明石町町会会長 守本利雄さん もりもと としお

毎年十二月初めの日曜日、築地川公園のデイキャンプ場周辺では明石町町会主催の「明石町もちつき大会・歳末助け合いバザー」が開催されます。朝から会場に機材の搬入や設営を行い、十一時のスタート前には、もち米の蒸し上げ作業や杵・臼の準備、販売する豚汁・赤飯・汁粉の用意、焼き芋のセッティングなど大忙し。いざ餅つきが始まれば、周囲はあつという間に人だかりとなり、子ども達も杵が振り下ろされるたびに大歓声が上がります。



40年以上前に特注した蒸し機。せいろ10枚が一気に蒸せる優れもので、作業はもちろん青年部メンバーが担当。



餅だけでなく、婦人部が準備する豚汁も大人気。「大きな鍋で作る豚汁は絶品」と楽しみにしている住民も多く、配布前から長蛇の列ができるほど。

■「無理なく参加OK」がキモ

この「もちつき大会」以外にも、春の花見会やバスハイク、盆踊り大会、秋には親子での防災訓練を兼ねた青年部主催のバーベキュー大会、年末の夜警活動などを行っています。三年に一度の鉄砲洲稻荷神社本祭では御輿も担ぎます。どの活動でも青年部が活躍しますが、「メンバー登録はせず、参加できるイベントを手伝ってもらう形です」と話す青年部長の柴田智さん。青年部発足当初は担い手がなかなか集まらず大変でしたが、柴田さん自身が消防団や明石小

学校PTA役員などの活動をしていく中で、「無理なく参加してもらうことが一番いいと感じた」といいます。一度顔を出せば次回からのハードルも下がり、また子どもと一緒に参加すれば親同士も顔見知り。「そういった輪を広げていくことが大事ですね」。守本会長も「町内の9割は新たに住み始めた人達。高齢者や子どもがいない世帯もいますので、学校以外の住民同士の顔をつなぐことも町会の役割」と、まち全体をつなぐ努力を続けています。



明石町町会の年末夜警は、幼児から中学生も参加する「子ども火の用心」。夜の街角に「ひのよーじん」と元気な掛け声が響き渡ります。



柴田青年部長(写真左)、守本会長(同右)

明石町町会の概要

明治時代に外国人居留地が設置された明石町一帯は、関東大震災ですべての建物が失われたとはいえ、江戸時代以来の歴史が詰まったまち。明石町町会はそのようなエリアで戦前から活動しています。一時は数十人まで加入世帯が減少しましたが、その後、新築マンションが建ちファミリー世帯が増えたことで、今では約1,000世帯を超えています。町会イベントには明石小学校に通う子ども達が参加するとともに、同小学校のPTAや管轄内の警察・消防署員などもボランティアで手伝ってくれるようになり、まち全体の「顔つなぎの場」になっているようです。

日本橋地域

地元・企業とともに、脈々と続く町会活動を守り続ける

再開発が進む日本橋界隈は、オフィスや飲食店が多く夜間人口が少ない地域ですが、江戸橋会が属する三町会エリアは、長年地元で商売している人が多いといえます。四年前に会長に就任した野村浩史さんも日本橋育ち（日本橋一丁目東町会）。隔年で行われる日枝神社「山王祭」や地域の祭りなど、長年続く祭事・行事も多いことから「まちの伝統を受け継いでいくという責任を感じながら取り組んでいます」と話します。三町会をまたぐ組織のため、細かい業務や気配りが欠かせませんが、町会の活動を目で見て肌で感じてきたという部分で、先輩メンバーからも信頼が寄せられています。



企業からの参加者は自社製半纏を着用するのも、伝統ある「日本橋」風情が漂います。

「江戸橋」の由来は昭和初期の旧区画名。半纏に歴史を感じます。



しかし、会単独行事だけでなく日本橋地区の活動も多いため、「やはり課題はメンバーを増やすこと」。中でも企業の参加・協力は活動を支える大きな柱であり、「まちを盛り上げるためには欠かせない存在」と、機会あるごとに参加を呼びかけています。

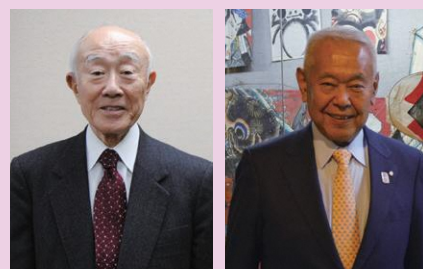
また、夜間営業の飲食店などの町会メンバーは、年末夜警などの活動に参加できませんが、声掛けが聞こえれば外に顔を出しあいさつを交わすなど、活動の盛り上げ役として一役買っています。最近では、代替わりなどもあり四十〜五十代の同世代のメンバーが増え始め、「昔開催していたボーリング大会のようなレクリエーションを復活しよう」という声も上がってきているとのこと。野村さんは「町会活動は人が集まってできること。参加しやすい会にするための交流の場も作っていききたい」としています。

■「活動を支えるのは人、メンバー同士の交流も増やしたい」

日本橋一丁目東町会 会長
日本橋二丁目町会 会長
日本橋三丁目東町会 会長

茂出木雅章さん
清水貞男さん
村木廣三さん

野村会長（写真左）、清水会長（同中央）
日本橋一丁目東町会・濱田副会長（同右）



村木会長

茂出木会長



日本橋二丁目町会が中心となって開催している、日本橋から皇居まで歩く「ゆったりウォーク」。親子で参加するメンバーもいて、にぎやかに歩きながら交流を深めます。



最近では女性メンバーも増え、ぐっと華やかな雰囲気。



2年に1回開催される日枝神社祭礼「山王祭」。多くの担ぎ手が集まります。

江戸橋会の概要

会長 野村浩史さん

「江戸橋会」は、日本橋一丁目東町会・日本橋二丁目町会・日本橋三丁目東町会の三町会連合の青年会です。当時、各町会において人手不足が課題となる中、三町会で共に地域を盛り上げ、日本橋を支えていこうと、平成元年に立ち上げました。同地域の住民や会社・事務所の拠点を置く人、企業など40～50人が所属。20～70代と年齢層も幅広く、多世代で日本橋の伝統を支えています。家族一緒に参加できるゆったりウォークや江戸橋橋洗い（室町、本町青年会合同）、年末夜警などの活動に加え、中央区子どもフェスティバルや日本橋・京橋まつり「大江戸活粋パレード」といった地域のイベントもサポートしています。

月島地域

目指すは子ども達の“ふるさと” 親子一緒に参加できるイベントを意識

THE TOKYO TOWERS 自治会 会長

高崎泰典さん

THE TOKYO TOWERS 自治会が行うイベントは、“子どもが楽しめる”内容が盛りだくさん。代表的なものでは、キッズダンスやライブイベントを行う約二千人が集まる十月開催の「コミュニティ・フェスティバル」や、豊海幼稚園から借りた臼と杵で餅つき体験などを行う年末の「お餅つき大会」があります。自治会長の高崎泰典さんは「このマンションで生まれ育つ子ども達にとっては、“ここが”ふるさと。思い出になるイベントを意識しています」といいます。



毎回盛況の「コミュニティ・フェスティバル」では、キッズダンスやゲームコーナーなどに子どもたちも大喜び！季節柄、スタッフはハロウィンの仮装でイベントを盛り上げています。



LINEを活用し 参加促す仕組み

さらに同自治会では、住民同士のコミュニティ活動として、マリンスポーツやゴルフ、クラフトワーク、ヨガなどのクラブがあり、そういった活動にも気軽に参加してほしいと考え、今年度から、情報発信手段としてLINEを活用し始めました。事前に登録すればイベントやクラブ活動のお知らせや地域・防災情報など生活安全に関わる情報も提供。「予定も立てやすいし、イベントボランティアの募集などもできるので役立っています」と自治会サポーターの方からも好評です。



「子ども達の思い出に」と、豊海幼稚園から臼と杵を借りての餅つき体験は、毎年行列ができるほどの人気！



情報発信ツールとしてLINEを活用。イベントの時間調整なども含めた効率化にも一役買っているとか。



クラブ活動も入居者同士のコミュニティ活性化の呼び水に（写真は年間総勢1,200人が参加するヨガクラブ）。自治会サポーターとして、レッスン後にイベント告知やボランティアの呼び掛けも行う。



人が中心になって運営していくことが大切」と高崎会長は考え、親子で参加したい、限られた時間だけでも参加したいという子育て・共働き世帯に融通を利かせる工夫も。その結果、自治会役員も大幅に若返り、人数も三倍増になり「湾岸タワーマンション対抗フットサル大会」などにも参加しています。さらに今後は「青年部を作ってドラゴンボート競技会等にも参加するなど若者向けのイベントも増やしていければ」と考えています。



住吉神社本祭りに参加！高崎会長（写真右）と自治会役員の方々

THE TOKYO TOWERS 自治会の概要

勝どきエリアに建つ「THE TOKYO TOWERS」は、58階建て2棟・総戸数2,800の区内最大級の高層マンション。2008年の竣工から一年後に地域・住民同士のコミュニティ活動の担い手として自治会が発足しました。3年前から体制強化を進め、管理組合や行政との連携を深めながら、多彩なイベントやクラブ活動支援、近隣マンションや町会にも呼び掛けて「水辺の防災フェスティバル」を主催、住吉神社例大祭や盆踊り大会といった地域活動、湾岸タワーマンションとの交流も進めています。また、次世代を担う子どもを意識した場作りや、“新住民”としての地域との関わり方などについて、ソフト面から地域力を高めるための活動を模索しています。



高崎会長（写真後列左）と自治会役員の方々